

改めて考えたい、国内債券の魅力

日

本の金利をニュースの見出しでよく見るようになった。象徴的だったのは10年国債利回りが2026年1月中旬に急上昇し、1999年以来の水準と報じられた場面だ。

金利はその後高いままで、2月4日時点では2.2%台の水準。日銀の利上げや財政拡張への警戒など、金利上昇圧力はいまだ残っている。

こうした環境の中で、個人投資家の視線が再び国内債券へ向いている。例えば、個人向け国債。固定金利型の発行額は利率とともに伸びてきた。ただし、足元では発行額と利率の相関は薄れている。更なる金利上昇が警戒されているのかもしれない。

このような局面で商品性が活きるのが、半年ごとに利率が見直される変動10年タイプ。今後さらに金利が上

昇した場合でも、利率はそれに応じて上がる設計になっている。

社債や地方自治体などが発行する債券もこれまでよりも魅力的に映る。これらの債券は、国債と比較して信用力が劣る分が、利回りに上乗せされる。

その選択肢も広がっている。国内企業の資金需要は旺盛で、国内社債の発行総額は2024年、2025年と2年連続で過去最高を更新した。金利が想定以上に上昇すれば、企業側がコストを意識して発行を控える可能性もあるが、今のところは高水準の発行が続くとの見方が強い。

為替リスクがなく、比較的安定した収益を見込みやすいのが国内債券の魅力。金利水準が変わったいま、改めて見直すべき資産ではないだろうか。

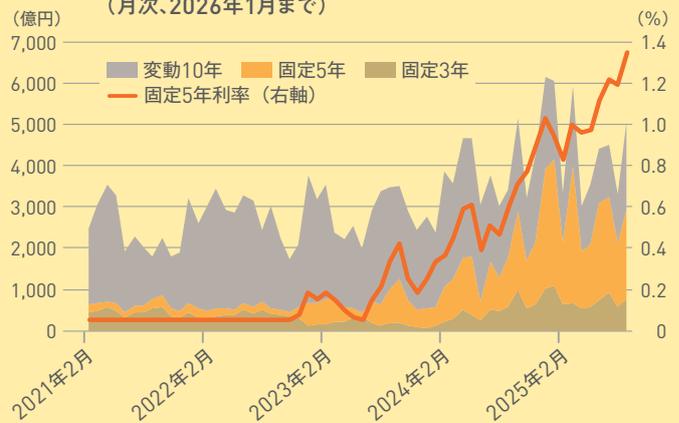


■ 図表1 10年国債利回りの推移 (月次、2026年1月まで)



(出所) Bloombergのデータをもとに当社作成

■ 図表2 個人向け国債の発行額と固定5年利率の推移 (月次、2026年1月まで)



(出所) 財務省ホームページのデータをもとに当社作成

国内債券という選択。いま、始めませんか。

当社では個人向け国債をはじめ、さまざまな国内債券をご用意しています。お客さまのご要望や運用目的に合わせた商品をご提案します。お取引店までお気軽にお問い合わせください。

